

事業名

つながる力を育てよう

目 標

子どもたちと保護者・地域の人々が、共同でより良い環境を作り出す作業を通して、子どもたちのつながる力を育てる。

1. 取組の視点

本校区は、「共育のまち伏見」を合言葉として、地域と連携した子育てを先駆的に実施してきました。

その土台の上に立ち、軌道に乗り始めた学校支援地域本部事業の活動を拡大、充実させる方向で取り組みました。学校支援地域本部事業の活動を地域で決める学校予算事業の中に組み入れ、校区の子どもたちに育てたい力を「つながる力」とスローガン化したので、そのスローガンの下、地域ぐるみの子育てを展開することが重要であると考えました。子どもたちと保護者・地域の人々が、共同でより良い環境を作り出す作業を通して、子どもたちのつながる力を育てることが望ましいことです。特に、ボランティアスタッフと連携して、親子清掃活動、ふれあい美化作業（野神公園美化作業など）、通学路の美化作業等を実施するなかで、地域ぐるみの活動を推進することにしました。

2. 取組の概要

(1) ボランティア活動の充実

伏見中学校生徒会・部活動が、地域自治会と協力して、ボランティア活動を充実させました。

- ① 野神公園美化作業
- ② 伏見まつりでのボランティア活動
- ③ 西大寺北地区防災訓練の参加
- ④ 幼稚園のペンキ塗り作業



(2) 二十歳を祝う会の協力

1月12日に二十歳を迎える成人を校区でお祝いをして、次世代の担い手を激励しました。

(3) 共育プロジェクト「響」の開催

校区学校関係者（小・中学校教職員・自治会・少年指導協議会・PTA・同窓会・校区保護司など）が一堂に会して、子どもの様子や地域連携の在り方を話し合いました。

(4) コーディネーターの連携

コーディネーターの代表者が定期的に集まり、情報交換を含め話し合いを深め連携しました。



3. 成果と課題

校区の子どもたちに育てたい力を「つながる力」と設定し、地域ぐるみの子育てを展開しました。

ボランティアの数が増え、さらに活気ある活動が広がりつつあります。そして 幼小中のボランティア活動の連携が深まりました。

また、校園でボランティアの活動している状態が、自然で、常態化しつつあるようになってきています。

コーディネーターとの連携が密になり、活動を明確化し活性化しましたが、限られた人達の活動になってしまいました。

より多くの行事に、子ども達や地域の人が参画し、協働できるよう、取り組みを進めたいです。

事業名

つながる力を育てよう

目 標

みんなで、美しく誇りの持てる学校・地域を作り出し、人と人とのつながりを深め、地域と連携した生徒主体の取組の推進をする。

1. 取組の視点

みんなで、美しく誇りの持てる学校・地域を作り出し、人と人とのつながりを深め、地域と連携した生徒主体の取組の推進を目指しました。地域と学校が協力したふれあい行事（ふれあい体育大会、ふれあい文化発表会、ふれあい美化作業）の開催をしました。また、地域と連携したキャリア教育やボランティア活動を実践しました。特に、図書館ボランティアが充実し、本の整理だけではなく、図書委員会との合同会議や合同作業をし、連携を深めました。本の読み聞かせ、コスモス読書会などにも広がりを見せました。そのような活動を通して、ボランティアの人と共に、さらに活気ある活動を広げていきたいです。

2. 取組の概要

(1) 学校図書の充実

- ① 昼休みに、生徒図書委員と共に、生徒に本の貸し出しをする
- ② ブックカバー掛け等の作業をする
- ③ 生徒図書委員と共にポップ（本の宣伝文）を作成する
- ④ 絵本の読み聞かせをする



(2) 教育環境の充実

- ① ふれあい美化作業等で、校内、校外の清掃活動を実施する
- ② ふれあい文化発表会・ふれあい体育大会で校区に開かれた学校づくりを実践する



(3) 学習支援活動の充実

ケナフ栽培をして、紙作りの補助をおこないます。

3. 成果と課題

私たちの最大の願いは、「子どもたちが地域の中で見守られ、育まれながら、生き生きと楽しく学校に通って来る」ことです。子どもたちの取組を地域で支援しようという機運が高まり、学校が地域の信頼をえるために、あらゆる機会に学校や子どもたちを知ってもらうという地道で根気強い取組を進めました。

校内、校外でボランティアの人が活動している状態が、自然で、常態化しつつあります。しかし、ボランティアの方々との話し合いが十分にとれなく、限られた人達の活動になってしまった取組があります。

学校側のニーズと、ボランティアの思い・熱意を、きめ細かくすり合わせをおこない、活動の明確化、活性化をはかる必要があります。

事業名

いきいき わくわく 地域とともに

目 標

地域の文化遺産、自然環境など地域のよさを知り、守っていく

1. 取組の視点

本校の校区には多くの地域遺産があり、自然環境にも恵まれています。また、地域の学校に対する関心も高く人材にも恵まれています。

このような立地条件を生かし、各学年に応じて地域の文化的遺産や伝統を調べることにより、子どもたちの地域への興味・関心を高め、自ら学ぶ力をつけていきたいです。そして、このことから地域の伝統や文化的遺産を守り、愛する気持ちを育てていきたいです。

さらに本校には奈良県版レッドデータブックに記載されている「イヌノフグリ」が自生し、校区にも「カンサイタンポポ」など多くの在来種が自生しており、自然環境においても里山的な自然が多く見られます。これらのことを調べることにより、自然環境を守っていく大切さを理解させたいです。

また、学習に関する支援をしてくださる地域の人たちのあたたかさと感じることから、自らも地域の一員としての意識をもって行動できるようにもしていきたいです。

2. 取組の概要

(1) 地域の文化遺産を生かした活動

- ・校区内の文化財や歴史に目を向ける。
- ・ゲストティーチャーのお話を聞く。
- ・グループを作り、活動計画を立て、調べる。
- ・伏見遺産発表会を開く。



(2) 地域の自然環境を生かした活動

- ・3種類の春の身近な草花を集めよう。
- ・植物の名前の由来について考えよう。

- ・伏見小植物図鑑で校内の植物を調べよう。

- ・校内の樹木の名前を葉っぱから調べよう。

- ・伏見の自然について調べ、まとめよう。

(3) 学習支援活動、地域との連携行事等

- ・家庭科学習支援（手縫い、ミシン）

- ・読み聞かせ（毎木曜日、おひさま・パートナー）

- ・本の修理（年5回、おひさま・PTA）

- ・町たんけん（2年）、昔遊び大会（1・2年）

- ・邦楽鑑賞（6年）

- ・サイエンス教室、伏見まつり、おもちつき



(4) 学校環境の整備活動

- ・清掃キャンペーン（1年生との清掃 年3回）

3. 成果と課題

地域の文化遺産に関して各学年に応じて行うことができました。特に5年は伏見遺産について年間を通してすすめ、講師の先生から教えていただいたことをいかし、さらに充実したものとなり、各自が自信をもちその成果を発表しました。

地域と自然環境に関して3・4年を中心としてすすめ、多くの自生の植物が学校内にあることがわかり、校区の自然の豊かさを知ることができ、自然環境への関心が高まりました。

学習支援に関しては町たんけん、家庭科支援、昔遊びなどに地域の方々の積極的な協力があり、どの活動も充実したものとなりました。

本年度は地域との連携行事も充実してきました。さら保護者や地域とともにすすめていきたいです。

事業名

出会いと体験から豊かな学びを

目 標

地域の人とともに豊かな学びを支える価値ある体験活動に取り組む。

1. 取組の視点

本校では「笑顔あふれ、一人一人が輝く学校～地域とともに子どもを育てる～」をテーマに本事業に取り組んできました。そのテーマ通り年間を通じて地域の方々にたくさんの協力をいただき体験学習を深めてきました。

低学年から高学年まで学習ボランティアとしてお招きし生活科、社会科、理科、総合的な学習の時間等様々な教科で体験的な学習を深めてきました。地域の方々との関わりを深め、身近な地域から学ぶことで児童の内面を豊かにする価値ある活動にしていきたいと考えます。そしてあやめ池小学校・校区に誇りをもち、あやめ池地域を大切に子どもを育てていきたいと考えます。

2. 取組の概要

「栽培活動ボランティア」の方々には年間を通じて学習支援や校内外の花の植え付け等環境美化に関わっていただきました。



夏休みには教師・PTA・地域の方々合同で校内(遊具・校舎内等)のペンキ塗りを行いました。また「お話の会」では読書活動に支援をいただきました。読書活動の形態は一様ではなく各教室に入っての朝読書の時間の読み聞かせ、月一回の図書館での読み聞かせのほかにもその話にあった楽しい雰囲気づくりをしながら子どもたちにお話の世界に浸るすばらしさを教えていただきました。

また外部講師をお招きし、子どもはたくさんの体験学習をすることができました。3年生の花器づくりでは6名の講師の指導のもと思い思いの花器を熱心に作っていました。4年生は伝統工芸士の方々から書道で使う筆作りを教えていただき伝統文化にふれそのすばらしさを体験させていただきました。



1年生は地域の高齢者の方々とは昔遊び交流をし、今ではあまり遊ぶことのない竹とんぼやお手玉等を体験しました。昔あそびの楽しさを感じ、地域の方々の温かさに触れるよい体験学習となりました。さらにEM団子づくりやあやめ池文化祭への参加等、地域の人たちと共に活動する体験も行いました。EM団子は水質を浄化する酵素の入ったテニスボールくらいに固めた土団子です。蛙股池や学校のプールに投入することにより水質が浄化され、また池の強いにおいがなくなりました。子どもたちは自分たちの学校・地域の環境保全に関わることで地域を大切にしようとする意識を高めることができました。

3. 成果と課題

学校・地域・PTAがさらに手を携えることで「地域ぐるみの子育て」をより推進しなければならないと考えます。そのためには地域の方々に学校に来ていただくだけでなく学校から積極的に地域に出て人々とともに活動することが大切です。また子どもたちが自ら進んで地域と関わる意欲・態度を高める取り組みを推進ことが今後の課題となります。

事業名 広がれ つながれ 豊かなこころの和！いきいき輝く 西北っ子！

目標 さまざまな体験や学びを通して、児童の感性をゆさぶり、豊かな心を醸成する。

1. 取組の視点



地域の伝統文化・文化遺産・自然環境を調べたり観察したりすることで、自然を愛する心を養い、地域の文化や伝統を守っていく大切さや地域のよさ知る取組をしま

した。また、地域の方々や保護者と一体になって進める取組もしました。



2. 取組の概要



栽培活動では、どの学年も何らかの植物を栽培しています。水をあげなければ枯れる・草も引かなければ大きく育たない。子どもにとってやりたくないことかもしれませんが、少し先の喜びを目標に、子ども達が体を動かし、汗を流して小さな達成感を味わうことができました。

読書活動では、子ども達が、人生をより深く生きていく力を身につけるうえで、



欠くことのできないものです。良い本との出会いを大切に、読書経験を積み重ねることで、子ども達は想像力を広げ、考えを深め、感性を磨き、判断力を伸ばし、表現力を高めます。全ての子どもが読書に親しみ、知る喜びを感じることができるよう、様々な読書機会を提供するように取組を進めています。

ぶっくらばこさんでは、本の修理やブッカーかけもしてもらっています。「人気の本はあつという間にぼろぼろになっています。でも、それも子どもたちにいっぱい愛された証拠です。修理に自然と力が入ります。」とのこと。



交流活動では、各学年のねらいや発達段階に合わせて、その道の専門家、ボランティア



団体の代表の方々など多種多様の方をお招きし、共に活動したり、お



話を聞いたりしました。

昔遊びでは、「童心に帰って教えるというよりも、



子どもたちといっしょになって遊んでいました。」お手玉では「みんなとても関心をもって素直に話を聞き、上手くなりたくて頑張る姿に感動しました。」という感想をいただきました。

清掃活動では、6月・夏休み中・



9月と、地域の方々と保護者で学校のまわりや運動場の草引き、また、校舎内の清掃やペンキ塗りなどをしていただ



き、美しい学びやすい環境作りにご協力いただきました。

3. 成果と課題



本年度は、特に金春流「能」伝統文化に一人一人が体験、飼育栽培活動や地域の方々とのふ

れあい、『交流や体験のなかで認めてもらったり、

できる喜びを味わったりして、自尊感情や感謝の気持ちが育まれる』こころの育ちにつながりました。

さらに、協力の大切さや自分の責任・役割をはっきりさせ積極的に取り組みました。また、読書タイム、読み聞かせや図書館の本の充実で『本に出会う、本に親しむ姿が昨年度より多くみられ、



読書習慣も身につけてきました。これまでの取組を支えてくださる地域の方々とのふれあいをさらに充実させることが今後の課題です。

事業名

「いきいき・わくわく・のびのび伏見っ子」

目 標

優しい心・思いやりの心・感動する心・地域を愛する心を育む。

1. 取組の視点

園では、幼児たちが地域や保護者の方と共に身近な自然や地域遺産などの本物にかかわり、見たり、聞いたり、触れたりすることで、命の大切さや人や物への思いやりの心、優しい心が育つようにと考えました。

また地域の教育力を生かし、蚕の飼育・英語や運動に親しむことで様々な人とのコミュニケーション能力を図り、地域を愛し守ろうとする心や感動する心をもち主体的に遊ぶ幼児の育成を願い、取組を進めました。

2. 取組の概要

【山添村民俗資料館へ園外保育】

世界遺産学習の一貫として昨年からの飼育している蚕についてさらに詳しく知るために、地域の方と一緒に山添村民俗資料館へ園外保育に出かけ蚕の専門家の方の話を聞いたり、糸を紡ぐ様子を見せてもらったりしました。蚕が繭になり絹糸となって姿を変え、身近な衣類などに生まれ変わることを知り本物に出会うことで幼児たちは、生命の不思議さや命の大切さを間近に感じ学ぶことが出来ました。

【ABCであそぼう】



地域の教育力を生かしゲストティーチャーを招き、ゲームや歌、絵本などを通して幼児たちが英語に親しむ機会を設けています。また、英語だけではなく人とかかわりを通して、挨拶を交わしたり人の話を静かに聞いたりする事の大切さなど楽しく学び合える機会となりました。



【未就園児親子保育】

地域の方の協力を得て、2歳児3歳児を対象とする、未就園児親子保育を実施。戸外でのびのびと好きな遊びを楽しんだり、絵本や紙芝居、絵画や制作等に取り組んできました。また、専門講師による親子体操教室を実施し、親子の触れ合いやコミュニケーションを図ると共に幼稚園への親しみや期待をもって参加できるようになりました。



3. 成果と課題

地域の方やゲストティーチャーなど、様々な人や物との触れ合いは、人とかかわる楽しさや、嬉しさを感じることができ、知らないことを教えてもらう豊かな体験となりました。また、蚕の飼育を見たり聞いたりしたことで、新しい発見があり、人やものへのいたわりや優しさ、命の大切さを感じるなど、大きな感動を味わうことができ、幼児にとっていきいき、わくわく、のびのび、心も体も充実した貴重な体験となりました。今後も幼稚園が身近な存在となるように園の取組を発信し地域の方が幼稚園に進んで足を運んでもらえるよう互いに協力し連携を密にしていきたいと思えます。地域の方が幼稚園に進んで足を運んでもらえるよう、園の取組を発信し連携を密にしていきたいと思えます。

事業名

園・家庭・地域 笑顔でつなごう手と心

目 標

園・家庭・地域が互いに心を通わせみんなが育ち合う園づくり

1. 取組の視点

身近な自然環境の減少や核家族化が進み、幼児が身近な自然との触れ合いや様々な人との関わる機会が減ってきています。また、様々な経験不足から基本的な生活習慣が身に付きにくかったり人とのかかわり方が不器用であったりする姿が見られます。本園では、「地域の身近な自然や人とのかかわり」「幼児の体力向上」「感動体験の積み重ね」「教育環境の充実」に視点を定め、地域の方々の協力を頂きながら『豊かな心をもち、生き生きと活動する幼児の育成』を目指し取組を推進してきました。

2. 取組の概要

○地域の身近な自然や様々な人とのかかわり
自分たちの住む地域をゲストティチャーと共に歩き、四季折々の自然の変化を肌で感じながら自然と遊ぶ楽しさを教えていただきます。また、保護者も参加することで一緒に学び感動を共有することができ、習字の日や菜園活動等にも地域の人の支えがあり見守られて様々な体験をしています。

○感動体験の積み重ね

親子ピザ体験や焼き芋など親子で楽しむ活動を増やし、同じ体験を共有することで幼児理解につながりました。また、民俗芸能鑑賞会やオカリナ演奏、お茶の日や英語の日など、日々の生活では体験できない感動体験を数多く経験し豊かな心の育成につながりました。



○幼児の体力向上

地域の方とのグランドゴルフや体操の日で思い



つきり体を動かすことを楽しみ、柔軟な体作りに取り組みました。体操の日では、音楽に合わせてリズムカルに動き先生に好きな曲をリクエストして体いっぱい使って踊ることを楽しんでいました。未就園児の保護者にも親子で体を動かす楽しさを体験していただき、親子のスキンシップの大切さを感じてもらえました。

○教育環境の充実

園の入り口付近に掲示板を設置しました。園での様子や様々な行事での子どもたちの姿をタイムリーに知らせられる場となりました。保護者からも「園での子どもたちの様子や行事の内容などもよくわかり、楽しみながら見ることが出来ます」という意見を頂き、保護者の幼児理解につながりました。また、地域の方にも園でのいろいろな子どもたちの姿を見ていただける機会となりました。

3. 成果と課題

子どもたちを中心として、家庭と地域、園とが互いに心を通わせ取り組むことで、様々な方に支えられていることを実感することができました。子どもたちは様々な人と触れ合う経験を積み重ねることで、受け身でなく主体的に行動しようとする力を身に付けてきています。人の温かさ優しさに触れ、敬う気持ちや感謝する気持ちなど豊かな心情が育まれました。

事業名

地域とつながる・ふれあい・響き合い・育ち合い

目標

チャレンジ精神を養い、意欲的な子を育てる。

1. 取組の視点

本園の子ども達は、近隣同士のふれあいや、遊び場が少なく、人と関わって遊ぶことの楽しさを共有しにくい現状です。そこで、地域の教育力を生かし専門性のある方とふれあいながら、様々な体験を積み重ねてきました。その中で、人々の温かさに触れ、自己発揮しながら、人と関わる楽しさを味わい、共に学ぶことでチャレンジ精神を養い、意欲的に活動する子に育つ事を目指しました。

「サッカーを楽しもう」「栽培教室」「作って遊ぼう」「お話こんにちは」「習字を楽しもう」「お茶を楽しもう」「英語を楽しもう」「人形劇を楽しもう」は、子どもたちが大好きな活動です。又、今年度は「南京玉すだれ」や「腹話術」の公演もあり、子ども達は目を輝かせて参加しました。

2. 取組の概要

＜お茶を楽しもう＞

日本の伝統文化に触れ行儀作法や、相手を思いやってお手前することを学びました。初めは畳の上で正座に慣れずそわそわしていましたが、回を増す毎に落ち着いて先生の話聞き、姿勢正しくお手前の練習ができるようになりました。お茶菓子や自分で立てたお茶をお運びして、相手に喜んでいただくおもてなしの心も学びました。最後に親子で茶道の体験をし、子どもの成長ぶりを見てもらいました。



＜南京玉すだれ・皿回し＞

『八つ房流美都香会』の方々から日本の伝統芸能である南京玉すだれや皿回しを見せていただきました。きれいな歌に合わせて、テンポ良く玉すだれがいろいろな形に変わっていく様子や皿回し



を見て、子ども達は「わあ！すごい。」「きれいなあ」と感動していました。チ

ャレンジのときには殆どの園児が我先にと手を挙げ、やりたい気持ちを表していました。挑戦した子は「難しいけど、できて嬉しかった」「おもしろかった」と大喜びでした。地域や保護者の方々も共に見ていただきました。後に、生活発表会の劇の中で「皿回しやりたい」と、楽しかった体験を思いだし、意欲的に自分達で試行錯誤して作ったお皿で皿回しに挑戦し、達成感や見せる喜びを味わいました。

＜一緒に遊ぼうの日＞随時

今年度から隣の小学生と中休みの時間に幼稚園で交流しています。全学年交替で定期的に関わることができて、縄跳び



やダイナミックな砂場遊び、ボール遊びなどを一緒にしたり、教わったりして、憧れの思いで「やってみよう」といろいろな事に挑戦する姿が見られました。又、このような幼児の姿を大型写真で定期的に掲示して、地域や保護者の方々に啓発しています。

3. 成果と課題

地域の方々や小学生達と関わる中で、いろいろなことを教わり、子ども達は挑戦する楽しさやできた嬉しさ、達成感等を味わい、その体験が自信につながって、主体的に自分達の生活に生かす姿も見られてきました。今後も地域や家庭、他校園と連携して発展していきたいです。